

# 平成31年度埼玉県公立高等学校入学者選抜に関するアンケート結果について

**趣旨** 平成31年度入試の実施状況や課題などの状況を把握し、今後の入試制度検討に向けて参考とするために実施する。

**概要**

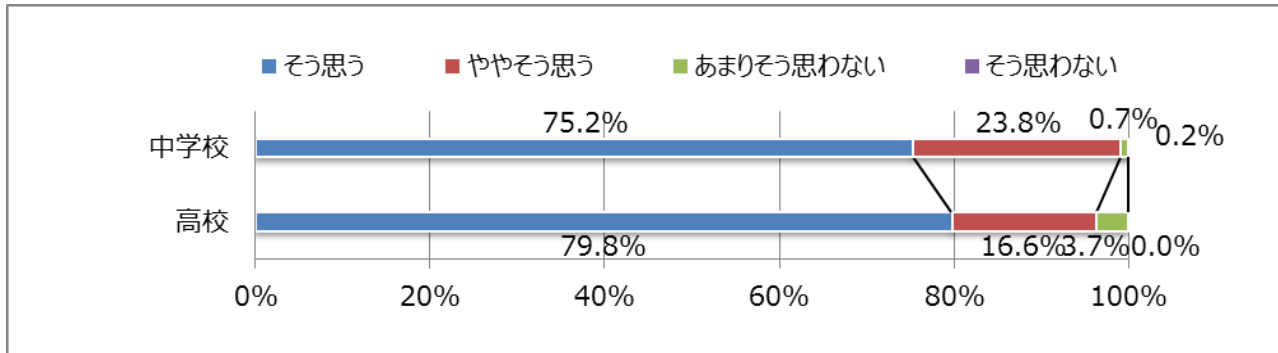
- 調査対象及び回答数
  - ・市町村立中学校 412校 (100%)
  - ・公立高等学校 全日制144校、定時制24校 (100%)
  - ・市町村教育委員会 63市町村 (100%)

○ 調査時期及び調査方法  
 時期：令和元年5月  
 方法：中学校、高校の設問について4つの選択肢から選ぶ方式。  
 ・市町村教育委員会は5つの観点に対しての自由記述方式。

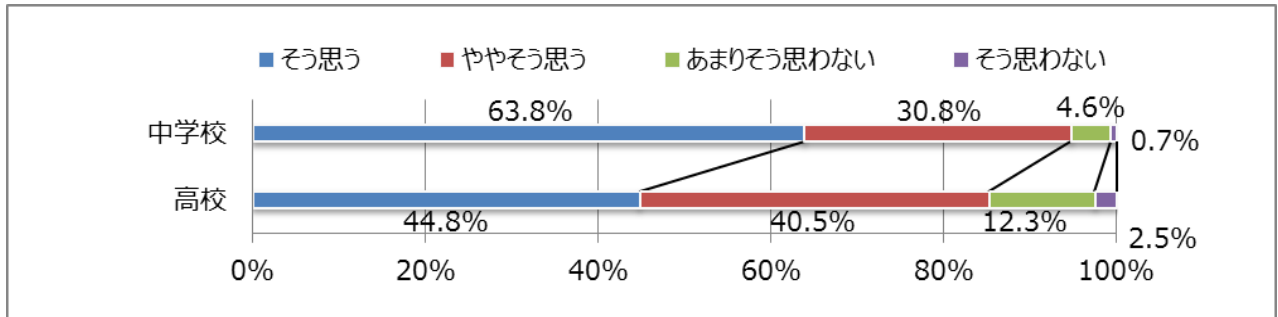
## 中学校・高校アンケート結果（抜粋）

以下の調査結果は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがあります。

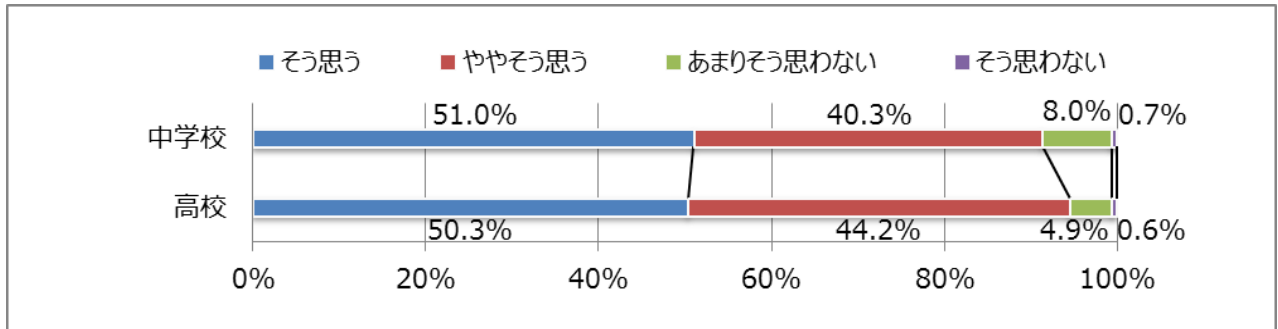
**A 学力検査（原則として全員に5教科の学力検査を受検させたこと）について中学生の確かな学力の育成を図ることができる。**



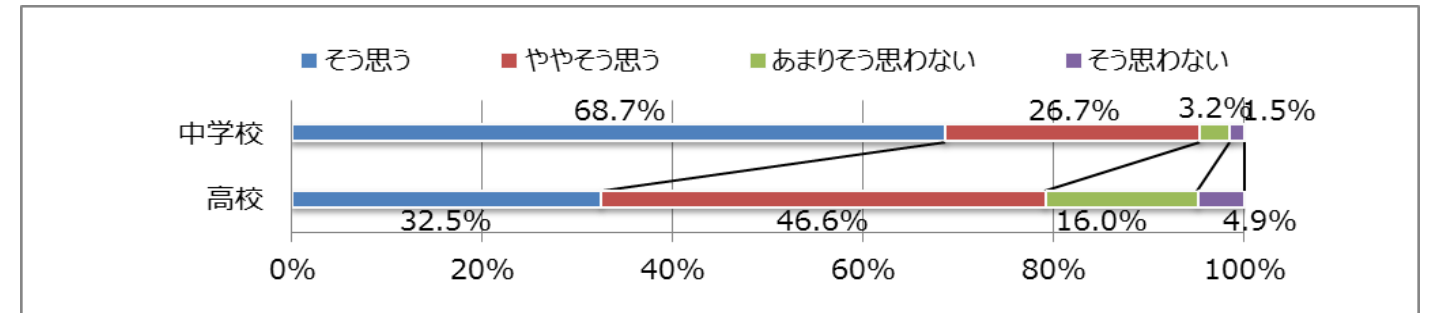
**B 平成24年度入試から学力検査の実施日を遅くして中学3年生の授業時間を確保した。中学3年生は、3学期の学習に最後までしっかりと取り組むことができていると考える。（中学校）中学校から高校への学習の接続が円滑にできている。（高校）**



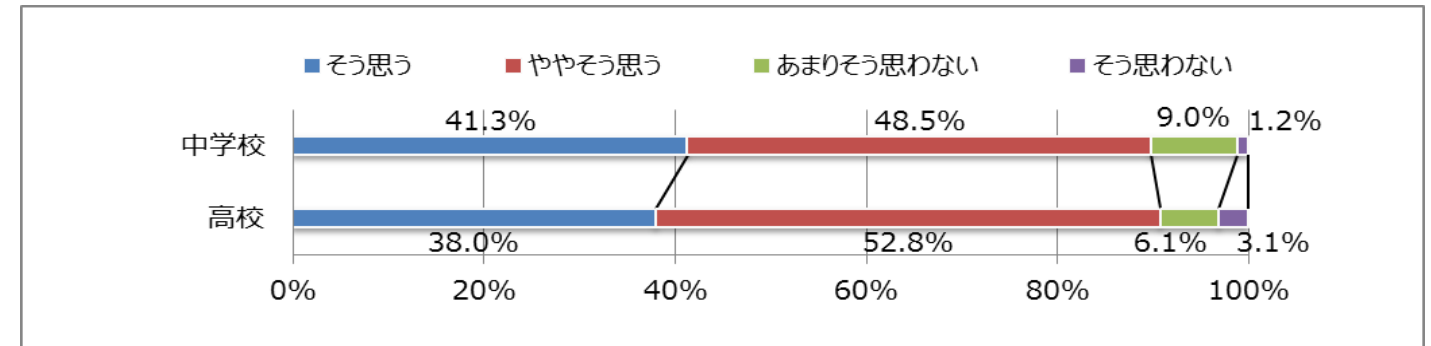
**C 調査書に記載された部活動等を入学選抜で評価することは、中学校の教育活動に良い影響を与えている。**



**D 学力検査の得点を高校が中学校に提供することで、中学校の主体的な進路指導に有用であるとする。**



**E 平成29年度入試から、数学と英語の「学力検査問題」は取り組みやすい問題を増やすとともに一部の高等学校で「学校選択問題」を実施したことについて、受検生一人一人が、数学と英語の「学力検査」に最後までしっかりと取り組み、受検生の力を発揮できる問題となっている。（中学校）数学と英語の「学力検査」に最後までしっかりと取り組み、受検生の力を見ることができている。（高校）**



## 市町村教育委員会アンケート結果（抜粋）

**A 学力検査において、全員に5教科の学力検査を受検させていることで、中学生の確かな学力の育成を図ることができていること。**

- 受検生全員が5教科の学力検査を受けることは、授業や家庭学習に対する取組や意識は高いものになった。
- 受検生全員が5教科の学力検査を受けることは、学習の取組の偏りを減らすことにつながっている。 など

**B 平成24年度入試から学力検査の実施日を遅くして中学3年生の授業時間を確保することで、中学3年生は3学期の学習に最後までしっかりと取り組むことができていること。**

- 公立高校の入試の開始時期を遅くすることで、中学3年生が3学期の最後まで集中して授業に取り組むことにつながっている。
- 公立高校が不合格となった場合、欠員補充実施校が発表されてから、受検校決定までの期間が短い。
- 入試の日程が遅いことで、私立高校の入学者が増加することにならないか。 など

**C 調査書に記載された部活動等を入学選抜で評価することは、中学校の教育活動に良い影響を与えていること。**

- 部活動等を入学選抜で評価することは、生徒の自己肯定感の向上につながる。
- 調査書に多様な評価の観点があることは、様々な活動を積極的に取り組む生徒の育成の一助となる。
- 調査書で部活動を評価することは、部活動の過熱化を招き、市町村で定めた部活動基本方針が遵守されない可能性がある。（同様意見複数）
- 人間の育成という部活動の本来の目的よりも、部活動の結果を求める成果主義を助長することになる。
- 部活動を「一生懸命取り組んでいた生徒」の活動が調査書では評価されないため、生徒・保護者の対応に苦慮することがある。
- 生徒を多面的・多角的に評価するため、部活動等の成果を評価することは、中学校の教育活動に良い影響を与えている。 など

**D 学力検査の得点が高校から中学校に提供されることで、中学校の主体的な進路指導に活用することができていること。**

- 中学校が学力検査の得点を蓄積していくことで、適切な進路指導につながる。
- 高等学校から提供される学力検査の得点をデータベース化することで、効果的な進路指導資料を作成している。
- 大規模な中学校にとっては、学力検査の得点を開示する事務作業は、大変であると聞いている。 など

**F 平成29年度入試から、数学と英語の「学力検査問題」は取り組みやすい問題を増やすとともに一部の高等学校で「学校選択問題」を実施している。受検生一人一人が、数学と英語の「学力検査」は最後までしっかりと取り組み、受検生の力を発揮できる問題になっている。**

- 学校選択問題の一部の問題は求められる学力が高すぎる。「教科書の学習だけでは対応できない」「学校の授業だけでは対応できない」という声が出ない出題をすべきである。
- 高いレベルの問題に挑戦することで生徒の学習意欲が向上した。○中学校の授業をふまえると、英語の問題は中学生には難度が高すぎると感じる。
- 思考力・判断力・表現力を育成する観点から、時間をかけて思考させる問題としたことは賛成である。 など